



鎮守の森だより

NPO法人社叢学会ニュース

第33号

2008年5月7日

5人の社叢インストラクターが誕生！

総会で理事長が認定証を授与

3月9日(日)に伏見稻荷大社で実施された第1回社叢インストラクター資格認定試験の結果、資格取得に挑んだ5名全員が認証基準を超えると認められ、3月22日に開催された第20回理事会で資格を認定された。

受験者は、それぞれ社叢インストラクター養成セミナーを修了し、地域の社叢での毎木調査や社叢学会の定例研究会や総会シンポジウムを聴講するなどの経験を積んだ上で試験に臨んだ。午前9時からの論文試験では、テーマが事前に提示され、それぞれが準備をしていたものの、試験の緊張も手伝ってか、「思い通りに書けなかった」という感想を漏らす受験者もいた。引き続いての短答式筆記試験の後、昼食休憩を挟んで口頭試問では2組に分かれた試験委員が受験者1人ずつに、

これまでの活動内容や今後の取り組み、社叢インストラクターへの意気込みなどを聞いた。

試験終了後、試験委員が合否判定原案を作成したが、それぞれ資格に恥じない知識・経験を認められ、全員を合格とした。5人の合格者には、年次総会で理事長より認定証が手渡される。今後、特別認定者も含めた社叢インストラクター・クラブを設置し、各地での活動や技量の向上を支援していく予定。合格者は以下の通り(順不同・敬称略)：田島卓明、長谷川泰洋(以上正会員)、窪山恵美、中島末二、藤原直孝(以上市民会員)
当日の試験委員：菅沼孝之副理事長、糸谷正俊理事、武田義明理事、渡辺弘之理事(全て社叢インストラクター)

なお、出題の概要は本紙5頁に掲載している。

平成20年度年次総会研究発表・シンポジウムの概要決まる

今年のテーマは「鎮守の森の現在と未来」

6月7日(土)午前10時から出雲大社で

6月7日(土)に出雲大社社務所研修室で開催される今年の年次総会・研究発表界・シンポジウムの概要が別紙(3頁)の通り決まりました。今回のシンポジウムのテーマは「鎮守の森の現在と未来」で、基調講演は上田正昭理事長、パネルディスカッションには千家和比古・出雲大社権宮司など地元の研究者を迎え、神話のふるさと出雲ならではの歴史に裏打ちされた未来への展望を議論いたします。8日(日)には日御碕と上田理事長が名誉館長を務める島根県立古代出雲博物館の見学会も開催いたしますので、奮ってご参加下さい。

なお、正会員で総会にご欠席の方は必ず委任状をお送り下さい。



絵図・地図から見た身近な森林景観の変化 —社寺林・陵墓・里山—

話題提供：鳴海 邦匡（大阪大学総合学術博物館助教）
 コメンテータ：小椋 純一（京都精華大学人文学部教授）
 コーディネータ：上田 篤（京都精華大学名誉教授・社叢学会副理事長）

絵図・地図から読み取れること 近世から近代の、地図を作る技術がどのように展開していったかをテーマとして地図、絵図をみる中で、これらに表現された景観と、現在のそれとが異なっていることに気づき、ここ200～300年間の景観の変遷が、絵図や地図を追うことによってわかるのではないかと思いついた。近代にどう大きく景観が変わり、それによって何が言えるかを解き明かすために、絵図、地図で環境の変遷を追うのだが、その時に必要なことは、史料を発掘し、質を明らかにし、使えるようにしていくことで、そのために図絵、屏風、地形図などを復元し、実際の地形に当てはめて検証した。

史料にはそれぞれ個性(=作られた意図)があり、これを理解することが重要になってくる。近世には「複製図」「迅速図」と言われる地図が存在するが、基本測量技術で作られていないなどの不備が指摘されている。一方「正式2万分の1地形図」は三角測量をしていること、緯度経度の座標軸を持っていること、図式が整理されていて分析しやすいことなどから、これを基本にして検証することとした。また最近では、史料をgoogle等の地図に重ね合わせ、江戸時代～近代と現在の景観変化を追いかけていくことが容易になった。

神社林・陵墓で何が見えるのか 陵墓、神社林に注目したのは、継続して存在するので資料が多く、追跡しやすいからである。鎮守の森といえば、変わらない森として保護されているイメージがあるが、絵図・地図を追ってみると、保護の歴史は意外に浅いことがわかってくる。例えば1766年に作成された春日神社(豊中市)の絵図では境内林にマツタイプの樹木が描かれており、1909年の正式2万分の1地形図でもマツが描かれている。また1930(昭和5)年に、つつじの開花の様子を知らせる新聞記事があるが、ここでも松林が写っている。更に1948年の米軍航空写真でも赤松山であったことがわかる。以上のことから、現在のシイ・カシ優先の広葉樹林は、戦後になって1960年代を境にアカマツ林から変化し始め、1975年には一般的な鎮守の森のイメージであるこんもりとした広葉樹林になったと思われる。

また、1972年に滋賀県の社寺林の調査が行われたが、その結果と正式2万分の1地形図と比較すると、ここでも同じように広葉樹林化しており、石清水八幡宮、伏見稲荷大社などでも同様のことが言える。**都市と自然との関係が変わった** 多くの鎮守の森は近代(=明治末)と、1970年代に大きく変化しているが、特に現代の変化は、森林資源利用のあり方が変わったことが何よりも大きな要因と考えられる。社寺林が利用対象から保護対象へと変わり、文化財・保護林に変化したということだ。

陵墓も同様で、仁徳天皇陵は現在は鬱蒼とした広葉樹林だが、近代地形図や1948年の米軍による航空写真ではアカマツ林であったことがわかる。江戸時代には雑樹林であったようで、瑞垣もなく、年貢の対象として登録されており、百姓が耕作し、樹木を取るなど利用が許可されていたと思われる。地図にはこうした土地利用の様子が反映されているのだ。

ところで、明治神宮の永遠の森構想は仁徳天皇陵がモデルとなっている。明治神宮の森を作った上原敬二は「原生林」である仁徳陵が理想だと書いているが、1920年代に原生林であったとは思えない。先ほど述べたように、戦後まではマツ林だったのであり、なぜこれを「原生林」と言ったのか、「仁徳天皇陵のような森を作りたい」とはどういう意味なのか、真意がつかめない。

好みが変わった 植生の景観がアカマツから広葉樹へ変化しているのは、植林によって常緑広葉樹を植え、残してきているからであろう。近代以降の広葉樹林化は風致策の結果であり、好まれる森林が変化したことを意味するのだろう。その背景として指摘されるのは、天然更新の森は管理が楽だということではないかと思われる。上原は、神社林は常緑広葉樹が理想の姿だとしている。上原の師である本多静六は1900年に「アカマツ亡国論」を唱えたが、荒廃しやすいトウヒ林を広葉樹にどう変えるかが大きな課題となっていた留学先のドイツでの経験が影響しているのではないかと思われる。とは言うものの、アカマツは森林更新の土台を作っているはずで、一概に排除してしまうものではないと思われる。

次回予告【第31回関西定例研究会】

- ◆日 時：2008年7月26日(土) 13:30～15:30
- ◆場 所：伏見稲荷大社儀式殿(京都市伏見区藪之内町68 Tel075-641-7331)
- ◆テーマ：京都東山のコジイ二次林の施業指標について(仮題)
- ◆講 師：高梨 武彦(京都造形芸術大学教授)

平成20年度年次総会の詳細

懇親会・エクスカージョンに参加後希望の節は、準備の都合上、5月30日（必着）にて、下欄ご記入の上、FAXもしくは郵便にてお送りいただくか、同内容をMailにてお知らせください。

	時間	時間・講師	
			発表者
6 月 7 日 (土)	10:00~10:45	年次総会	
	11:00~12:30	研究発表 神社と都市公園の隣接配置に関する研究 ～社叢保全のための公園計画 大国魂神社境内地の生活史的研究 社叢学会亀岡支部 活動報告	長谷川 泰洋 福島 瑠璃 津軽 俊介
	12:30~13:30	昼食	
	13:30~17:00 13:30~15:00 15:15~17:00	シンポジウム「鎮守の森の現在と未来」 基調講演 上田 正昭（社叢学会理事長・京都大学名誉教授） パネルディスカッション パネリスト(順不同・敬称略) 千家 和比古（出雲大社権宮司） 松本 岩雄（島根県立古代出雲歴史博物館学芸部長） 杵村 吉則（島根自然保護協会会長・元島根大学助教授） 錦田 剛志（島根県立古代出雲歴史博物館専門学芸員・万九千神社禰宜） コーディネータ 菅沼 孝之（社叢学会副理事長・元奈良女子大学教授）	
	17:30~19:00	懇親会（希望者 1人3,500円：送迎バス代含む）於 ツインリープスホテル出雲	
	8 日 (日)	9:30 10:00~10:30 11:00~13:30 14:00~	ツインリープスホテル出雲出発 出雲大社正式参拝 日御碕見学と昼食 島根県立古代出雲歴史博物館（説明の後、自由見学・解散）

----- 研究発表・シンポジウムと関連行事参加申込書 -----

FAX：075-212-2916

* ご希望の行事の() 欄に○をおつけ下さい。同伴者がいらっしゃる場合は人数をお書き下さい。

- () 研究発表およびシンポジウム（非会員は1人500円） : 同伴 人
- () 懇親会（1人3,500円（送迎バス代込 同伴者1人まで同料金 2人目からは1人4,500円）） : 同伴 人
- () 日御碕と島根県立古代出雲歴史博物館見学
（1人5,000円（昼食費込）同伴者1人まで同料金 2人目からは1人6,000円） : 同伴 人

会員番号

お名前

FAX番号・Mailアドレス等連絡先

社叢インストラクター養成セミナーの開催と 社叢インストラクター資格認定試験の実施について

今年の社叢インストラクター養成セミナーはⅠ期(4日間)を9月に、Ⅱ期を11月に開催いたします。例年通り、社叢学会理事を中心に優れた研究者による、実習を中心とした多彩で充実した内容の指導を受けることができます。社叢インストラクター資格の取得にはセミナー修了が必須となります。奮ってご参加下さい。募集要項等、詳細は次号に掲載いたします。

社叢インストラクター資格認定試験は、来年(2009年)3月に実施予定です。受験の条件となります実地経験には、総会シンポジウムの聴講や各地での定例研究会、社叢の見学会などへの参加も算定されますので、ぜひご出席下さい。

あなたの手で地域の貴重な緑を守りませんか？

掲 示 板

『原稿募集!』

『社叢学研究』(第7号)への投稿:論文、研究ノート、資料紹介や調査報告(各400字詰原稿用紙40枚以内)と「鎮守の森の活動報告」(右記参照)を募集します。締め切りは、いずれも11月28日(金)必着。

* 書評欄では会員の皆さま方の著作を取り上げています。出版された方は、ぜひ、ご献本下さい。

* 6号58ページの訂正シールを同封いたしました。お手数ですが、田中氏と窪山氏のタイトル箇所には貼付下さい。

「鎮守の森の活動報告」

祭、音楽会、調査などの活動、抱える問題点などを1,200字程度でご報告下さい。手書きでも結構です。写真やイラストなども、お添え下さい。

次回予告【第3回福岡県支部定例研究会】

- ◆日 時: 5月16日(金) 9:00~17:30
- ◆場 所: 九州大学農学部附属演習林早良実習場 ほか
 - * 演習林の概要、自然環境と生態系について解説を受けた後、林内に残る元寇防塁跡を見学。さらに「名護屋城跡」「諸大名陣屋跡」「佐賀県立名護屋城博物館」などを訪れる。昼食は呼子のイカの活き造りを予定。
- ◆集 合: 太宰府天満宮 境内
- ◆講 師: 矢幡 久(九州大学熱帯農学研究センター教授・社叢学会理事)
- ◆参加費: 1人8,500円(バス代・昼食代等 当日お支払い下さい)
- ◆定 員: 45人 ※12日(月)までにお申込み下さい
- ◆問合せ: 太宰府天満宮 味酒(みさけ)もしくは惣原(そうはら) Tel092-922-8225

次回予告【第16・17回中部定例研究会】

- ◆日 時: 5月31日(土) 13:30~16:00
- ◆場 所: 津島神社参集所(愛知県津島市神明町1 Tel0567-26-3216)
- ◆テーマ: 信長の台所・津島神社の社叢について
- ◆講 師: 和出 泰夫(津島神社宮司)・黒田 剛司(天王文化塾・塾頭)
- ◆日 時: 6月28日(土) 13:30~16:00
- ◆場 所: 多度大社参集殿(桑名市多度町多度1681 Tel0594-48-2037)
- ◆テーマ: 多度山・多度大社の社叢について
- ◆講 師: 塚原 徳生(多度大社宮司)・石神 教親(桑名市教育委員会文化課(予定))



第1回社叢インストラクター資格認定試験問題

2008年3月9日 伏見稲荷大社にて実施



筆記試験Ⅰ【10:00～11:00】：下記のうち1題を選択し、2,000字以内で記述（課題は事前に提示）配点＝100

問題1：A県のB神社には、小面積ながら社殿の周囲にうっそうとした自然性の高い森が残り、県の自然環境保全地域に指定されている。また、境内に生育するタブノキの大木は目通りの直径が2mを越え、県の天然記念物に指定されている。地元の氏子の人たちは、神社と森を大事にして、毎週、境内を清掃し、ゴミや落ち葉をきれいに掃き清めてきた。ところが最近、このタブノキの樹勢の衰えが目立つようになり、枯れてしまう恐れが出てきた。社叢の中にもシュロやトウネズミモチ、ピラカンサなど、以前は見られなかった植物が増えて森の様子が変わってきた。氏子達で今後の対応について相談したところ、タブノキの幹や枝に付着したシダやコケを取り去って樹肌をきれいにしたらどうか？ という意見や、これまでは放置してきた社叢についても、多少の下刈りをするなど手入れをしたほうがよいのではないかと、という意見が出ている。タブノキの大木や自然性豊かな社叢を守るにはどうしたらよいらうか。あなたの考えを述べなさい。

問題2：社叢について、生態学的な見地からその意味を論述しなさい。

筆記試験Ⅱ【11:10～12:10】 配点=200

問題1：西日本の平地に見られる良好な社叢を構成するには不相当と思われる樹種に○をつけ、その理由を簡単に述べなさい。配点=15+15

イチイガシ・シュロ・コジイ（ツブラジイ）・サカキ・クロガネモチ・キョウチクトウ・アカマツ・カナメモチ・ムクノキ・ヤブツバキ

問題2：次の樹木のうち、東北地方の社叢にはあまり見られない樹種に○をつけなさい。配点=10
サカキ・ケヤキ・スギ・ブナ・スダジイ

問題3：次の樹種のうち、海岸に多い常緑広葉樹で、東北地方北部にまで自生している種に○をつけなさい。配点=10
ホルトノキ・アカガシ・タブノキ・クスノキ・アコウ

問題4：次の森林のうち、常緑広葉樹林帯と落葉広葉樹林帯の境界域の代表的な自然林に○をつけなさい。配点=10
イチイガシ林・モミ林・ブナ林・ウバメガシ林・スダジイ林

問題5：社叢の動物調査で気をつけないといけない有害動物の例を5種(類)あげなさい。配点=20

問題6：国土地理院の1/2.5万の地形図に、以下の土地利用や施設はどのような記号で表されているか。()内に該当する番号を記入しなさい。(図示略) 配点=20
針葉樹林・神社・田・竹林・史跡・名勝・天然記念物・荒地・果樹園・畑・森林管理署

問題7：上の問題(6)の「針葉樹林」とはなにをさすか。現存する群落の樹種名に「林」をつけて5種(類)あげなさい。配点=20

問題8：上の問題(6)の「広葉樹林」とはなにをさすか。現存する群落の樹種名に「林」をつけて5種(類)あげなさい。配点=20

問題9：社叢を舞台に、野鳥による種子散布について述べなさい。配点=20

問題10：社叢を守るために講じられる各種の方策について、社叢インストラクターの立場から見て正しいものに○、間違っているものに×を()内に記入し、×については、その理由を簡単に述べなさい。配点=40

1. 保存樹・保存樹林の指定等の保護策を講じる。()
2. 塀で囲み、周囲から見えなくするとともに、立ち入りを禁止して、破壊から社叢を守る。()
3. みんなで社叢を守る運動を広げる。()
4. 社叢の所有者や周辺の自治会等に働きかけて、子供たちの環境学習、地域学習の場として活用を図り、社叢の大切さを普及啓発し、こうした活動を通じて、社叢の保全育成をはかる。()
5. 近隣住民からの苦情をさけるため、日照障害や落ち葉の散乱を招く恐れのある大木をすべて伐採除去し、中低木中心の林にかえる。()

社叢学会が 日本学術会議協力学術研究団体に

社叢学会は、4月7日付で日本学術会議協力学術研究団体に指定されました。

日本学術会議は、1949年1月に「科学が文化国家の基礎であるという確信の下、行政、産業及び国民生活に科学を反映、浸透させることを目的として」、政府から独立した機関として設立された我が国の科学者を内外に代表する機関で、「科学に関する重要事項を審議し、その実現を図ること」「科学に関する研究の連絡を図り、その能率を向上させること」という職務を担っています。人文、生命、理工の3部と、選考、科学者、科学と社会、国際の4機能別委員会、さらに30の学術分野別の委員会等が置かれ、「I 政策提言、科学に関する審議、II 科学者コミュニティの連携、III 科学に関する国際交流、IV 社会とのコミュニケーション」といった役割を果たしています。

「日本学術会議協力学術研究団体」は、日本学術会議と各団体との間で緊密な協力関係を持つことを目的として設けられたもので、「①学術研究の向上発達を図ることを主たる目的とし、かつその目的とする分野における学術研究団体として活動しているものであること、②研究者の自主的な集まりで、研究者自身の運営によるものであること、③「学術研究団体」の場合は、その構成員(個人会員)の数が100人以上であること」が指定の要件です。指定によって、情報の提供や会議の共催・後援などが受けられる他、機関誌等への論文掲載に対して学位取得の際の業績評価点が上がることになり、『社叢学研究』が、若手研究者にとってさらに意義ある発表の場となります。

今回の指定により、名実ともに学会としての活動を深めていくこととなりますが、社叢学会は一方で幅広い市民と共に進む活動体でもあります。今後もこの方向性を堅持しつつ、研究者と市民が共に協力し合いながら、社叢の研究、保存・管理に取り組む団体でありたいと願っています。

事務局から

- 平成20年度(2008年4月～2009年3月)の会費の振替用紙を同封いたしました。学会活動を円滑に運営するためにも、会費の納入方、よろしく願いいたします。入金の確認をいたしましたら、会員証をお送りいたします。
- 今年も社叢インストラクター養成セミナーを開催いたします。わが国を代表する研究者から、少人数で行き届いた指導を受けることのできるまたとない機会です。皆さまのご受講をお待ちしております。
- 総会が近づいてまいりました。上田理事長が歴史のふるさと出雲で、古代史を語ります。また、若い研究者の研究発表もあります。今年も興味深い論議が交わされます。振るってご参加下さい。

編集後記

おっと、まだまだと思って油断していると、あっとゆー間にもう連休じゃん。休みは嬉しいんだけど、その間にも総会はどんどん近づいてくる。そんな、くっついてくるなよおと言って追い払っても、シツコクついて来る。もお、やだなあ。

てな時に迷惑Mailが人の迷惑考えずに来るわけです。迷惑は迷惑なんだけど、時々笑えたりして。曰く「shasou様 あなたのことが忘れられませんか(そうか、そうか、そんなに気にかけてくれるんなら寄付金1千万円でええからくれ!)」「近くにいます。会いに行ってもいいですか?」「(ええけど来んねやったら手伝えよ!)。あ、これこれ、そこのネコさん、アンタの手でええからかしておくれ。(藤岡 郁)

次回予告【第31回関東定例研究会】

- ◆日 時：6月28日(土) 13:00～17:00
- ◆場 所：國學院大學渋谷キャンパス (東京都渋谷区東4-10-28)
※ 教室未定(関東地区の方はチラシをご覧ください)
- ◆テーマ：沖縄の聖地・御嶽(ウタキ)をめぐって
- ◆講 師：グヴェンドリン・ファン デル フォルスト ※講演は日本語で行います
(皇學館大學大学院文学研究科神道学専攻)
- ◆コッネクター：藪田 稔(社叢学会副理事長・京都大学名誉教授)

発行人 社叢学会事務局 〒604-8115 京都市中京区雁金町373番地みよいビル303号
TEL 075-212-2973 FAX 075-212-2916
URL <http://www2.odn.ne.jp/shasou/> E-Mail shasou@ams.odn.ne.jp
社叢学会関東支部 〒141-0031 東京都品川区西五反田2-10-8-415
TEL 03-5875-8423 FAX 03-5875-8321 E-Mail shasou@macrovision.co.jp